

事業所名 グループホーム さくらの家

日付 平成 21 年 6 月 12 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 高齢者福祉・医療における
実務経験3年以上

介護福祉士
介護支援専門員

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

前回の訪問から大きく進展した点は、入居者の健康管理の面である。高齢化、重度化する入居者に対し、医療面の不安は入居者や家族、そして職員にも課題となっていたが、看護師をユニットごとに配置できるように増員し、協力医療機関の往診対応の協力も図れるようになった。現場で気になったことや入居者の状態がリアルに看護師や医師に伝わり、スピーディーな対応が可能となり、入居者や家族、そして職員に安心感が大きく増したようだ。特に職員は相談者がいることで、知識も向上し、利用者の変化のサインを見逃さなくなりました。

リビングは、入居者の安全性と利便性を考え模様替えし、ソファの配置や不要な物の整理により広く明るく感じた。

食事の面では、ケイタリング形式ではあるが、入居者の要望により応えられるように、職員で献立を作成している。記録面では、利用者の記録が、よりその人が見える記録方法を取り入れ、前回より改善に向けた取り組みが着実に進んでいる。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

職員確保が重点課題の中、新人職員を積極的に受け入れている。今後、言葉かけや入居者への接し方において重点的に、先輩の良い所を参考にすることで、更なる新人教育の充実に期待します。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	職員は笑顔や挨拶の基本を忘れず、入居者の目線を大切に、コミュニケーションを取りながら家庭的で温かいグループホームを目指しています。また、代表者は、さくらの家を矢掛地区でのコミュニティーの場としていきたいと考えています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	生活面では、寄り添うことを基本に拒まれても一緒に行動することで、信頼関係を築き、入居者を落ち着かせたり、活動意欲を触発したり、体調を整えたりするような物(フットマッサージ器や加湿器等)を設置したりし医療面では、准看護師を各ユニットに配置する事で、見守り介護にも安心感が生まれています。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	生活環境において自分で出来る事は自分で行ってもらえるような環境づくりを念頭に置きながら、その方のやり方を尊重して行っている。調理や洗濯物たたみにしても個々の入居者によってやり方が異なるが、否定せず一緒にいき、日々介護に取り組んでいます。また、職員は利用者への言葉かけに十分配慮しながら行っています。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	転倒防止策として、ソファを和室の側面や廊下に配置してみたり、口に入れやすく、すぐ手にできるもので、誤飲等の事故が発生しないために、高所の棚に厳重に保管したりと入居者の不順な動きを未然に防ぐ努力(工夫)があります。また、新人職員教育にも力を入れ、マンツーマンで教えたり、介護勉強会を開催したりしています。		